

サッカーワールドカップ日本代表選出について思うこと

いよいよ2014ワールドカップが始まります。5月12日には23名の代表選手が発表されました。一人一人は挙げませんが、マンチェスターU・ACミラン・インテルなど世界のトップチームで活躍する選手たちが名を連ね、期待せずにはいられません。なかでも GK の川島永嗣選手は旧与野市出身で、浦和東高校在学時には同じポジションの現和光サッカー部顧問の水間先生と凌ぎを削っていた中なのでつい肩入れしてしまいます。

さて、埼玉県はとてもサッカーが盛んな土地柄です。レッズとアルディージャというトップリーク J1 の2チーム以外にも J2・J3・なでしこ・大学・高校・ユース・中学校など広がる裾野も充実しています。特に高校年代では、浦和・浦和市立・浦和西・浦和南などが錚々たる歴史を築いて来ました。このように埼玉を制する処が全国を制するとまでいわれていた時代の昭和54年の学徒大会で和光高校サッカー部は県で優勝を果たし、第一代表で関東大会に挑みました。

当時チームを率いていた濱名哲也先生に話を伺うことができました。ちなみに濱名先生はサッカー部の指導に加え、後に国際主審の資格も取得され、発足当時の Jリーグの試合で審判としても活躍された方です。退職された現在は、再任用教諭として浦和一女サッカー部の指導をされています。



「教員になって2年目の年で、とびぬけた選手などももちろんいませんでした。無欲の勝利という言葉が一番あてはまるかもしれませんが、一戦一戦を力を合わせて勝ち取ってきました。一回戦も決勝戦も気持ちの上では変わらず、サッカーを大好きな選手たちが相手校の名前に怯まず、一歩も引かずに走りきるという自分たちのサッカーに徹したことが印象に残っています」

「開校以来6年連続で関東大会に出ているラグビー部の存在は、自分と選手たちにとって追いつく目標であり同時に自信と勇気をもらいました」

残念ながら、その年の選手権では敗れ全国の舞台に立つことはできませんでしたが、当時西部地区からの初優勝ということで大きな話題になったそうです。ラグビー部が全盛を誇る中、2つの部活が切磋琢磨し力を付け、全国大会を目指していた当時の様子が浮かんできます。サッカーの日本代表と同じく今の和光高校の皆さんにも同様の気概を持ち、日々励んでほしいと思います。